

グループ②「家庭生活における貧困」総まとめ

グループメンバー：大澤、太田、加藤(佳)、河本、佐藤、猿田、畑、広瀬、藤山、古谷、
Sr.三上、森、上田

私達のグループは「家庭生活における貧困」をテーマに話し合ってきました。一口に家庭といっても一般的な家庭と特殊な状況下の家庭があります。特殊な状況下の家庭について、Sr.三上から経験談をお聞きしましたが、私達の浅い知識と経験では、責任を持って話し合う事が難しいと思い、初期の段階で一般的な家庭について問題を絞っていく事にしました。

「家庭生活における貧困」の要因として、経済的孤立、精神的孤立、地域からの孤立など様々な孤立があり、孤立しない為にはコミュニケーションを通じてお互いの信頼関係を築く事が重要であると考えられます。コミュニケーションといっても色々な相手や場合が考えられるのでパターンを次の三グループに分ける事にしました。

1. 家族間のコミュニケーション
2. 学校と家庭のコミュニケーション
3. 地域とのコミュニケーション

まず、「家族間のコミュニケーション」についてですが、親と子、特に母と子の関係が土台にあると思います、そこに焦点を絞りました。時代の流れと共に家庭の在り方も変わり、子供達を取り巻く環境も劇的に変化してきました。例えば、個人のプライバシーの尊重の時代背景により、早くから個室が与えられています。そういう状況の中では、子供の微妙な変化に気づかない親が多いのではないのでしょうか。又、子供も必要な時に親にシグナルを送れずにこもってしまう子供が多いのではないのでしょうか。これには、携帯電話の普及も大きく関与しています。子育てというものはいつもタイミングがあり、待つてはくれません。大事な時期を見逃してしまうと親にも子にも後で大きなツケが回って来る様に思えます。

親としても少子化により、子供への過度な期待から子供への関わり方が自分本位になって来ているのではないのでしょうか。日本の伝統や習わしといったものを若い人に伝えるには、口で言うだけでなく自らの行動で見本を示し、伝えていく事も大切です。

次に「学校と家庭のコミュニケーション」についてですが、最近の流行語で「M o n s t e r P a r e n t s」という言葉がある様に、先生と父兄の関係もかなり様変わりしています。親も学校に対して、子供に学ぶ姿勢を教える事より、受験のテクニックのみを求めているのではないのでしょうか。

今の子供達の大きな問題点として活字離れ、読書離れがあります。読書によって様々な事を学び、知識を蓄え、思考力や想像力を養っていくべきですが、知識不足の為、心が未熟なまま身体だけが成長し、心と身体のバランスが取りにくくなって来ます。読書を受験には不必要と考え、学校での読書の指導に反対する親もいる様です。

上記の様な問題がいろいろ起こった場合の親の姿勢、考え方により学校とのコミュニケーションの密度も良い方向へ変化していくのではないかと思います。

3番目の「地域とのコミュニケーション」についてですが、都市部と地方では格差があると思いますが、最近では昔の様な隣人同士の付き合いや町内会の付き合いなどが、少なくなっている様です。これを「家庭生活における貧困」の問題点の一つとして考え、子育てや老人問題、孤独死などの問題解決の一つに「地域とのコミュニケーション」が大切ではないかと話し合いました。実際にマスコミ報道などでも、自治体や学校関係、福祉関係がこの問題に目を向け始め、活動している様です。そこで実際にどの様な活動がなされているのか、まず身近なホームページを検索する事で調べました。渋谷区は「子育て、子供に関する支援」という項目があり、杉並区は「福祉、教育」や「子育て」、港区は、「子育てネット」などの項目がありました。杉並区の場合、区が認定しているNPOの団体も紹介していました。又、殆どの区では「子供家庭支援センター」を設置し、子育てや教育の基礎知識やノウハウの提供、相談を行っている様です。

「地域とのコミュニケーション」の問題点を考えると次の三点があげられます。

- ① 情報の貧困（情報社会であるのに、情報入手の手段を得られない人がいる）
- ② インフラの貧困（自治体、NPOなどのケアがまだまだ不足）
- ③ 生活形態の多様化による貧困（個人社会になり、隣人とのコミュニケーション不足）

私達のグループは「家族間」、「学校と家庭」、「地域」の三点から「家庭生活における貧困」について話し合ってきました。様々な現状を知るうちに、日本の将来に危機感を感じる様になった丁度その時、日本の経済社会も劇的に悪化しました。それにより今まであげた以上に事態も深刻になって来ています。だからこそコミュニケーションが今以上に大切になるのは明らかです。ここで私達も今一度自分自身、親との関係、子供との関係を振り返り、コミュニケーションの大切さを再認識する事が大切なのではないのでしょうか。

解決策とは言えませんが、今回JASHのホームページが開設された事をうけ、これに多くの情報が寄せられ、活用される事を期待しております。それと同時に親の為の生涯教育の様な場を、私達の母校である聖心の同窓会から発するチャンスを設ける事が出来れば、コミュニケーションの貧困という複雑な迷路に少し光を当てられる事が出来る様になると思います。